

十全看護専門学校

令和四年度 社会人入学試験（一次）

国語総合

令和三年十一月二十九日実施

一次の文章は朝日新聞2020年4月24日（金）の記事である。よく読んで、解答用紙にある設問に答えよ。

スペイン風邪に学ぶことは

20世紀最悪の①パンデミックとされる100年前の「スペイン風邪」（1918～20年）。死者は、世界全体で2千万～4千万人、国内でも40万人前後が亡くなった。当時の朝日新聞紙面や内務省資料を調べると、感染防止の対策や社会の動揺が、新型コロナウイルスに見舞われている今と、②ウツシエのように似ている。私たちは1世紀前の悲劇から何を学べるのか。

当時の東京朝日新聞の紙面では、1918年秋から、国内でのスペイン風邪流行の記事が紙面に③ヒンパンに④トウジョウするようになった。

《患者に近寄るな ⑤咳などの⑥飛沫から伝染 今が⑦西班牙風邪の⑧ゼツチヨウ》（18年10月25日付）

《感冒流行各地に⑨防疫官を⑩派遣 内地で目下⑪熾烈なのは愛知、福井、埼玉の各県》（同26日付）

学校では運動会や遠足の中止、休校も相次いだ。

《学習院の運動会中止 各官方の御身を⑫気遣ひ》（同27日付）

大阪市内では全小学校や幼稚園が1週間⑬ヘイサされ（18年11月5日付）、東京などでも小学校の休校が相次いだ。

休校・マスク・外出⑭自粛 変わらぬ対策

クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号を想わせる、船内での集団感染の記事もあった。《航海中に死者続出》（同7日付）として、米国から日本へ向かう船内での感染拡大を伝え、妻子を亡くした男性の様子などを報じている。

同年12月25日付の紙面は、日本の患者数が1千万人にのぼったと伝える。内務省衛生局が、スペイン風邪の記録をまとめた⑮「流行性感冒」（平凡社）によると、国内では18年8月～19年7月の最初の大流行の後に、19年9月～20年7月、20年8月～21年7月にも流行期があった。国内の患者数は約2380万人、死者約38万8千人とされる。後の研究で死者約48万人との推計もある。

感染拡大を封じる取り組みは、新型コロナがひろがっている今と、驚くほど似ている。「流行性感冒」によれば、政府が呼びかけた対策は、（ア）着用▽（イ）▽室内の（ウ） や掃除▽患者の（エ） など。マスクの材料に、外科用カーゼは（オ）との記述もある。

密集空間の危険性の指摘も現在と一緒だ。大勢が集まる場所への出入りについて、「⑯芝居、⑰寄席、⑱活動写真などには行かぬが（カ）」「電車などに乗らずに歩く方が（キ）」と自粛を求めた。テレビやインターネットがなかった当時、広報に使われたのがポスターだ。車内で口を開けて寝入る男性を描き「マスクをかけぬ命知らず！」と過激な調子で呼びかけるものなどが作製された。

新聞も《恐怖時代襲来す 咳一つ出ても外出するな》（20年1月11日付）と、飛沫感染に神経をとがらせた。同3日付紙面では、電車内で「手放して咳をする事」の禁止が検討されたことも報じられた。

正確な情報 住民への素早い公開が重要

ワクチン接種も進められた。ただ、インフルエンザがウイルスによって引き起こされることが明らかでなかった当時では、効果は乏しかったようだ。著名人の死も相次ぎ、社会に衝撃を与えた。18年1月6日付紙面は、劇作家の⑬島村抱月の死去を、多くの紙幅を割いて伝えた。臨終に間に合わなかったことを嘆く、愛人だった人気俳優⑭松井須磨子のコメントなどを掲載した。

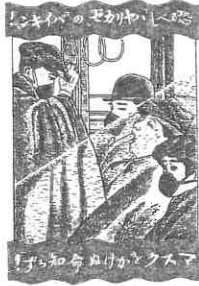
新型コロナウイルスの感染拡大で危惧される医療崩壊についても、100年前の紙面は伝えている。20年1月6日付紙面は『病院は満員お断り』との見出しで、都内の各病院に患者が殺到して入院ベッドが不足していることや、看護師が足りないため、派遣要請の1割にも応じられない状況を詳報した。

100年で科学技術は進展したのになぜこれほど変わっていないのか。スペイン風邪に詳しい国立保健医療科学院の逢見憲一主任研究官(公衆衛生史)は、ワクチンの進歩を除けば、「マスクをする、密集は避ける、患者を隔離する、といった感染症対策の取り組みは変わらない」と話す。当時の対策は感染拡大のスピードに対して遅れた面があったようだといひ、「正確な情報を素早く集めて、住民に公開することが重要。今に通じる教訓だ」と指摘する。

長崎大熱帯医学研究所の山本太郎教授(国際保健学)は、新型コロナウイルスの感染力を(ク)同じ程度と推測し、「新型コロナウイルスも、ワクチンができるか、あるいは多くの人が感染することで集団免疫を獲得するまでは、終息は難しいのではないかとみている。」

(林幹益)

流行した当時に作製された 啓発ポスター



(国立保健医療科学院図書館蔵) 内務省衛生局編「流行性感冒」から

スペイン風邪

年	患者数	死者数
18年8月	1372万8598人	21万3632人
19年1月		
2月	80万249	2万2027
3月	38万204	1万4013
4月	11万2291	5573
5月	3万7051	1649
6月	8263	400
7月	1642	69
9月	17万9535	5102
12月		
20年1月	133万2713	5万5096
2月	58万1816	3万8485
3月	15万9370	1万7302
4月	7万9768	8555
5月	7万2434	2742
6月	5150	346
7月	1281	38
8月	282	16
9月	659	24
10月	1613	76
11月	3738	134
12月	1万4256	279
21年1月	2万8853	451
2月	4万4296	711
3月	7万7537	1030
4月	3万7550	709
5月	1万1669	210
6月	2859	46
7月	881	12

患者数と死者数の推移

内務省衛生局編「流行性感冒」から

命を落とした 主な著名人

- 島村抱月 (劇作家)
- 竹田宮恒久王 (皇族)
- 大山捨松 (女子教育に尽力、大山巖の妻)
- 辰野金吾 (東京駅など手がけた建築家)
- 村山槐多 (画家)
- グスタフ・クリムト (オーストリアの画家)
- エゴン・シーレ (オーストリアの画家)
- ギヨーム・アポリネール (フランスの詩人)
- マックス・ウェーバー (ドイツの社会学者)

■新型コロナウイルス感染者 (11月10日午後7時現在)

国内の確認: 172万4591人(+205) 死者 1万8319人(+3)

地域	感染者	死者	地域	感染者	死者
北海道	60846 (+8)	1472	京都府	35937 (+7)	291
青森	5896	38	大阪府	202827 (+26)	3055
岩手	3486	53	兵庫県	78593 (+15)	1396
宮城	16274 (+1)	118	奈良県	15636 (+4)	149
秋田	1919 (+6)	27	和歌山	5297	62
山形	3551	56	鳥取	1668	5
福島	9486 (+1)	175	島根	1731	5
茨城	24419 (+3)	219	岡山	15417 (+14)	136
栃木	15460	116	広島	22119 (+4)	202
群馬	16816 (+3)	176	山口	5771 (+5)	93
千葉	115700 (+17)	1049	徳島	3289	65
東京都	100421 (+9)	1026	香川	4700	38
神奈川県	381869 (+25)	3157	愛媛	5408 (+2)	82
新潟	169012 (+14)	1311	高知	4166	33
富山	8002 (+1)	61	福岡	74481 (+7)	622
石川	4867	52	佐賀	5864 (+1)	30
福井	7965 (+2)	129	長崎	6118	73
山梨	3115	38	熊本	14393	136
長野	5156	29	大分	8186	84
岐阜	8883 (+1)	97	宮崎	6137	41
静岡県	18881 (+6)	218	鹿児島	9102	66
愛知県	26791 (+2)	209	沖縄	50291 (+5)	397
滋賀	106740 (+8)	1157	その他(空港検疫など)		
滋賀	14806	163		4668人(+8)	死者8人
滋賀	12431	104			

入院・療養中 1959人(-140) うち重症 96人(-3)
 退院・療養解除 170万5039人(+1712) (10日午前0時現在)

総数 172万5314人(+205) 死者 1万8332人(+3)

総数にはダイヤモンド・プリンセス乗船者を含む。カッコ内は前日最終集計との比較。都道府県と厚労省の発表は一部重複する。再陽性は延べ人数で計上

■ワクチン接種 (9日、医療従事者は略。総接種数は年齢不明含む)

	1回目	2回目
総接種数	9172万3984(72.4%)	8782万8087(69.3%)
高齢者	3279万7699(91.7%)	3253万9489(91%)
64歳以下	5849万8645(64.4%)	5493万9666(60.5%)

十全看護専門学校

令和四年度 社会人入学試験（二次）

国語総合

令和四年三月三日実施

次の文章は、朝日新聞 2021年11月21日（日）のNO1767「いま子どもたちは」医の心、育むの記事である。味読して設問に答えよ。

医の道 心もケアしたい

10月下旬、午前8時半をまわると、紫色の①キンチャク袋を手にした高校2年生たちが、②黄金色の③阿弥陀如来像を置く講堂に集まってきた。福岡市中央区にある④筑紫女学園中学・高校の朝の⑤勤行_ニおつとめだ。

「⑥シセイを⑦タダしてください。」

仏教委員長の赤司瑞祈（あかしみずき）さん（17）の⑧凜とした声を⑨アイズに講堂が静まりかえった。

「⑩モクソウ」

香炉から広がる柔らかい香りに包まれ、およそ420人の生徒たちの表情が穏やかになっていく。澄んだ鐘の音とともに、「宗教担当の平孔龍（たいらこうりゅう）先生（44）のお経が講堂に響きわたる。

我建超世願がごんちようせがん 必至無上道ひつしむじようどう 斯願不満足しがんふまんぞく 誓不成正覚せいふじようしようがく

講堂は厳かな空間となり、生徒たちはキンチャク袋から取り出した聖典のお経を黙読する。学校は⑪浄土真宗の教えに基づく人間教育をア建学の精神とずる。生徒たちは⑫礼拝や仏教の授業を通して、他者をいたわる慈悲の心や命の大切さを学ぶ。そのイ仏教の視座を身につけ、医療の道をめざす生徒が学ぶ「医進コース」が誕生したのは2020年春のことだった。松尾圭子校長（64）は、訪問した大学の医学部の先生の言葉が忘れられない。

「一医者は日々、精神が不安になる患者と接する仕事。そういう気持ちをくみ取って話ができる医者じゃないと困る」さらに、力説された。「受験の成績がよくて合格しても、患者に向き合えるだろうかと心配になる学生もいる」と。

学校には、医学や看護学といった学部がある大学に進学したい生徒が多く在籍する。松尾校長は「医学部をはじめ医療系の難関学部への合格可能な学力のある生徒に、進路先を偏差値基準で薦める指導はするべきではない。医の道に進んで何をしたいのか、受験に臨む前から明確にしておくことが大事なのではないか」と思いを深めた。

ウ人の痛みがわかる仏教の教えは、医の道に進む生徒たちの学びの⑬ソジにもつながるのではないかと考え、志を同じくする生徒が集まるコースを立ち上げた。昨春、一期生15人が高校に入学した。仏教委員長の赤司さんもそのひとりだ。「せっかく仏教の学校に入学したのだから」と、入学当時から⑭ケンキンの呼びかけや⑮シキテンの準備といった活動に励む仏教委員会への参加を決めていた。委員長となった今秋、医療者が時に直面する死に向き合う姿を学ぶ機会を得た。

いのちを考える。8〜9月、佐賀県基山町の⑯住職山内智宏さん（55）を招いた集中講義があった。山内さんは医療や⑰カイゴの現場で、緩和ケア⑱病棟のボランティアを務める。25年前からは、久留米大病院（福岡県久留米市）の小児科血液グループ親の会が主催する「星まつり」に参加する。星まつりは、医療者とともに毎年開かれる、がんで亡くなった子どもたちの⑲ツイトウカイだ。

赤司さんは幼少時から片頭痛や⑳嘔吐、まぶたのかゆみに悩み、症状が治まりつつある現在も、小児病院に通う。そこで幼い患者と⑴ソウグウする赤司さんは、治療がかなわず、命を失う子どもたちに触れる講義内容に「⑵怖さ」を感じた。一方で死で終わらないつながりがあることも知った。

山内さんは、生物学的生命と「エ物語られるいのち」があると説いた。亡くなった後も、医療者らが集い、その子たちを思い出し、語り合い物語られる。「人としての命は終わっているけれども、誰かの中に生きている。そして支

えとなり、生きる方法を教える大切な存在となる。」、山内さんはそう語り、星まつりに参加する母親の言葉を紹介した。「病気を抱えても自分の命を生き切った。私も精いっぱい生きようと思う」

医師は治療で病気を治す立場だが、患者がその人らしい人生を過ごすために(3)バンソウすることもある。講義が進むにつれ、赤司さんは体得した気持ちになった。講義前、「なぜ、お坊さんが医療現場の話をするのだろう」と思っていた赤司さんの疑問は解けた。「医療も仏教も、命と向き合っているんだ」

「治してあげたかったけど、治せないこともある。そのとき、(4)ザセツ感や(5)ハイボク感ではなく、患者や家族が、精いっぱい生きた、精いっぱいお世話かできた、という思いになってもらえる医療者になってほしい」。山内さんのメッセージは、緩和ケアや緩和病棟に暗いイメージを重ねて聞いていた医進コースの生徒たちの心に、オ学びの滴を与えた。講義の感想文にはそれぞれの思いがこぼれられた。

斎野美緒さん(16)は、医療者が(6)トウビョウウチュウや死別後も家族を支えたことによる「笑顔のお葬式」の話に(7)トクシンした。「家族や医療チームが互いに思いやることができたから、病気の本人も含め、(8)タズサワった人全員が(9)ナツトクのいく(10)サイゴを迎えられたのではないかと思った。

看護師経験がある母の影響を受け、医の道をめざす大久保有里さん(17)の感想文は、人の死をただ悲しいととらえない仏教の考え方に思いを寄せ、こう結んだ。

「治療をするだけでなく、患者さんの心が少しでも穏やかになれるような、心のケアも丁寧にしてあげたい」

(前田伸也)



学校には、医学や看護学といった学部がある大学に進学したい生徒が多く在籍する。

松尾校長は「医学部をはじめ医療系の難関学部への合格可能な学力のある生徒に、進路先を偏差値

●朝の勤行。仏教委員長の赤司さん(中央)は、手を合わせ、講堂中央の阿弥陀如来像を見つめる
|| 福岡市中央区の筑紫女学園中学・高校 ● 山内住職の「いのちを考える」集中講義 || 同校提供

